



聖心キャンパス



第210号の主な記事

- ・2017（平成29）年度入学式関連記事
- ・新任教員紹介
- ・2016（平成28）年度卒業関連記事
- ・卒業生の進路状況及び就職活動について
- ・聖心女子大学マグダレナ・ソフィア・バラ記念学長賞
- ・聖心女子大学の初年次教育及び1年次センターについて 他



入学特集



式辞「深く、幅広く学ぶ

—行動力をもって社会と関わるために—



聖心女子大学長 岡崎 淑子

の本学では大事にしています。幅広い知識を身につけることは、狭いものの方を克服し、偏見にとらわれない理解のある人、包容力のある人になることにつながり、現代のグローバル化社会で、多様な人々と出会い、異なる価値観や考え、習慣をもつ人々と共に暮らしていくために必須であると言えます。深い知識とともに幅広い知識を身につけるために真剣に勉強すること、偏見にとらわれない広い視野を持った女性として人格を形成すること、そのようにして社会に貢献できる女性へと成長することは一直線上にあります。

新入学生の皆様、おめでとうございます。保護者の皆様、お嬢様のご入学をこころよりお祝い申し上げます。今日、皆様を本学の学生としてお迎えすることができてとても嬉しく思います。皆様一人ひとりがこの大学で学び、楽しく有意義な学生生活を送りたいと描いていらっしゃる夢を、期待以上に実現させることができるように、本学教職員は、皆様をしっかり支援、指導していきたいと決意しているところで

まず、第一に申し上げたいことは、大学は勉強をするところであるということです。新しい知識を学ぶことは楽しいと同時に大変なこともあります。この大学で開講されている科目は約1300科目あり、専門性や学年などに応じて制限はありますが、1年生にも開かれていく科目は沢山あります。具体的な手引きはガイダンスで説明されますので、是非勉強したい科目を積極的に見つけて挑戦してください。専門性の深い内容を掘り下げて学ぶと同時に、様々な分野の知識を広く学ぶことを、リベラルアーツ大学として

大転換し、価値観が混乱する極めて困難な時代にあつて、女性が高度な学問知識を学び、よりよい社会の実現のために行動を起こせるよう育成することでした。ですから、以来200年以上どんな時代にあつても聖心の教育のDNAには、社会を少しでもよい方向に変化させていこうという、知性豊かで行動力をもった女性像が刻まれています。今日からこの大学で勉強し、学生生活をスタートさせる皆様も、是非主体的に自分の軸にできるテーマや課題をみつけて、知識、行動の両方から探求し、活動していきましょう。

皆様より7年先輩にあたる卒業生が本学を卒業する前に話してくれたことを思い出しています。AO入試の2次試験の課題作文の問題が「現在、日本には多くの外国人が住んでおり、その数は増え続けている。今後、私たちが異文化との共生を図るには、どうすればよいか、あなたのまわりの事例を紹介しつつ、あなた自身の考えを述べなさい。」というもので、入学してからもずっと「共生」の問題が気になっていて、「共生」というテーマが自分の中で軸になり、色々な授業を選んで勉強し、卒業論文では「崩壊国家に対する国際介入と援助—ソマリアの事例より」というテーマで研究したことを話してくれました。又、彼女は東日本大震災で親を失うなどつらい経験をされた陸前高田の子供達の遊び相手をするボランティア活動を熱心にやっています。た。「共生」という軸で知識を学ぶだけでなく、震災からの復興支援活動という行動にもつなげていたようです。

さて、この講堂のステージの正面には、丸いロゴマークがあります。これは皆さんがつけていらっしゃる大学の校章の図柄と共通で、その元は今述べた200年以上前のマグダレナ・ソフィア・バラの時代にさかのぼります。徽章やロゴは、それを使う人々や組織のアイデンティティーやヴィジョン・理想などを表します。2つのハートは、キリストと聖母マリアの心臓をかたどっており、一つの心臓はいばらに囲まれ、その隣の心臓は剣で貫かれています。いばらと剣を伴ったハートは、苦しみや犠牲をも超えた愛を表しています。このような伝統的な図柄の徽章が大切にされるとともに、現代、グローバル化が進む時代に、聖心会のみならず、世界の聖心の学校や同窓会でも広く用いられているロゴマークには、より現代的な図柄に、根本的には同じメッセージやヴィジョンが込められたものがあります。式次第の中に載っていますのでご覧ください。

た地図は、神の心に抱かれた世界の人々、地球、を表していると同時に、私たちも心を開いて、多様な特徴をもった異なる世界の人々を尊重し、関わっていこうという理想を表しています。ハートの上の部分に3次元のクロスが描かれています。これは単なる飾りではなく、重い意味があります。異なる世界の人々に心を開き、共に行動しようとするときにしばしば乗り越えなければならぬ難しさや苦しさがあふ、しかし、そこに神がともにおられる、というメッセージを表しています。よりよい社会への変革のために行動を起こしていくことが、本学の伝統の原点にあることをお話ししました。今日から聖心女子大学の学生となり、将来、時代を担う人となる皆様も、今、周囲を見渡せば、「変革」を求められている多くの物事に気づくことでしよう。その気づきを出発点に、建設的な方法で変革を起こしていくこと、これは聖心生の課題であり生涯にわたっての使命です。

皆様は真剣に勉強すること、大学生活を楽しく充実させていくこと、両方の達人になって、在学中も将来も生きがいをもって活躍できる人間をめざしてください。

聖心女子大学の学生生活の出発にあたって、神様が皆様を豊かに祝福して下さいようお祈りいたします。





聖心女子大学協力会副会長 木村 雅彦

新入生の皆さん、聖心女子大学へのご入学、おめでとうございます。ご家族の皆様、ご息女を今日まで支え、見守ってこられたご努力に対しまして、深く敬意を捧げます。

協力は聖心女子大学における学生生活が円滑でかつ充実したものであるように支援する保護者を中心とする後援会組織です。

今、皆さんは学長様のお話を聞いて、益々希望に燃えていることでしょう。

卒業生の父親の一人として、聖心での学生生活が実りあるものになるように心に留めていただきたい事をお話ししたいと思えます。

本学一期生の渡辺和子さんの言葉に「今」という瞬間は今を先立って私の歴史の集大成であると同時に、今をどう生きるかが次の自分を決定するという事です。人生は点のつながりとして一つの線であって、遊離した今というものはなく、過去とつながり、そして未来とつながっているわけです」があります。

本日の今、入学式を単なる儀式としてではなく、過去を振り返り、未来に向かって立ち止まる、人生の節目・スタート台に立つ記憶に残る日としてください。

まず、今日に至る家族の方と過ごした日々を思い出してみましよう。あなたの歴史です。あなたの方は情報革命の第一期生です。生まれたときからインターネットが当たり前前に存在し、ご家族で一番詳しいかも知れません。国境や境遇の違いを超えて、情報の収集、通信が容易になりました。

世界では米同時多発テロが起り、その火種は消えるどころか拡散しつづけ、続いてリーマンショックで大混乱しました。このように世界は狭くなり、良くも悪くも一体化しています。小学校入学時から日本の人口が自然減少となり、少子高齢化の影響が現実になりました。

中学生の時は東日本大震災に襲われ、普通の日常が必ずしも続かないことを思い知らされました。皆さんが生まれた頃から今日に至るまで、日本経済は停滞していますが、その課題を解決すべく再生への道を今、探っています。これらの経験は皆さんに多くのことを教えてくれました。同時に、思い出はご家族に対する感謝に繋がります。

これから始まる4年間を想像してみてください。この未来は人生の中で一番大きな変化の時になります。

安全性が最重要課題になるでしょう。個人ベイスではインターネットの功罪をあなた方が認識し、真贋を見極める選別能力が求められます。

東京オリンピックが開催されます。前回の時は多くの先輩がボランティアで大会の運営を支援しました。グローバル・多様化を実体験するでしょう。

国策ではデフレ停滞のレジームチェンジを期して社会の活性化がさらに実施されます。そのなかの大きな柱は「女性の活躍できる社会への進化」です。「女性の力が十分に生かされていない」現実があります。日本の男女平等度は世界で111位です。

「女性活躍推進法」が制定され「社会のあらゆる分野において、2020年までに指導的地位に女性が占める割合を少なくとも30%程度とする具体的な数値目標」が示され、女性特有の視点・価値観の反映が求められています。

必要なのは次世代育成の支援体制構築・職場風土の意識改革・法制整備の進展により、女性の働き方、社会の意識が変わる事です。この課題は、ダイバーシティというさらに広汎なものとして今後進展が見込まれます。

そして今一つ重要なことは皆さんこの期間に成人になるといふ事です。18歳、大学生という身分で大人の世界を垣間見ますが、20歳になりますと一人前の社会人としての権利と責任が発生します。十分な判断力を備え契約を締結し、その内容を守らなくてはなりません。この時期を逃して自立する権利と自律する責任を兼備できる機会はありません。

今日から4年間、1459日は皆さんに等しく与えられた自己の夢実現への準備の期間であります。

今申し上げたように、時代の変化・要請をしつかり見据え、今、なすべき事、求められている事を常に考えて、計画性を持って、挑戦して下さい。

夢なき者に理想無し、理想なき者に計画無し、計画なき者に実行無し、実行なき者に成功無しです。

何事を成し遂げるにも、健康第一です。その

為には、規則正しい生活をし、よい習慣を続ける事。毎日、朝食をとり、朝一番の授業に必ず出席する事です。

聖心女子大学の建学の精神・教育方針については学長様のお話をいただきました。

私からは聖心にいればこそ、得られる三つの可能性についてお話しさせていただきます。第一はワクワクするような知的探求です。

聖心のカリキュラムは、必要と思われる知識を広く取り入れて応用できる知恵に育て、個別の学問分野の壁を越え多様な知識に触れることを目指します。自分の課題を見つけ出し、広い視野で物事を効率よく論理的に判断できる能力を養うリベラルアーツです。

大学は小学校から続く延長線にあるわけではありません。高校までとは全く違う別世界です。大学は学問の自由（アカデミーフリーダム）により教授陣が自由に決定し、皆さんが何を学ぶかを選択します。学生も教員も共に学ぶ存在であり、「知の共同体」です。正解が一つであるとは限りません。道なき道を探り進みます。

また、これまでの環境と全く異なる中で他の価値観に触れて気づきを得ることは、自己を相対化し、正確に捉える力になります。それにより、あなたの成長を促し、いかなる時でもよい。自ら学び、ワクワクするような知的探求をし、人生を楽しく有意義に送る為の知識と教養というツールを聖心で身につけて下さい。

次はグローバル視点です。これはグローバル視点にも必要といわれていますが、なかなか日本では体験できず、体温のない言葉になっていきます。日本は例外的に極めて安全な、同質性が高い国であります。昨年の難民認可はわずか28人です。

しかし、意図しなくてもグローバル化の波は押し寄せ一段と加速していきます。本学一期生の緒方貞子さんはグローバルについて

「多様な価値が理解でき、多様な対応ができる事」であるとし、心構えとして、「あなたの隣にいる人のため、何かできることをやるような努力を積み重ねる」事をあげています。

これは聖心の教育の根底をなすものです。聖心の豊富な国際交流活動に積極的に参加しましょう。素晴らしい施設も更に充実します。

「日本人としてのアイデンティティを高めつつ、多様性を認め、地球規模で広く物事を考え、行動は地道に足許からする」ことを毎日の生活で体得し、世界に通用する誇り高い人になって下さい。

そして、最後は聖心は皆さんを未来の可能性を作り出してくれる良き環境に包んでくれます。保護者の方はお嬢様を育てるにあたって、常

に「我が子を最良の環境に置かせたい」と願ってきただけです。子が成長し、夢を持った時、その実現が可能な環境に置きたいの願いです。キリスト教ヒューマニズムに基づく真の人間性・社会性を基本とする教育が「聖心スピリット」に基づき行われています。すべての学生をかけがえのない一人一人として尊重し、可能性を信じ、十分にサポートし、成長させる環境がここにはあります。

学長様はじめ、すべての教職員がそのような環境作りに精魂を傾けており、卒業生をも含む豊かな教育コミュニティがあなたを包んでくれます。積極的に聖心の一員として、これらの人と触れあってください。

大学は卒業した後、その頃の青春を懐かしむという感傷的な場所ではありません。大学とは学んだ生き方を実践し、常に大学と関係を続けることで、前向きにあなたの未来の姿を形作る学びの場所です。聖心は未来に続くあなたの頼りがないのある後援者としてあなたを支えてくれます。

卒業生でいらつしやる美智子皇后陛下も聖心の学生生活を、創立50周年記念式典でこのホールで思い深く語られました。

「聖心会創立者の望みに添い、私も一人一人の学生が、少しでも真理と愛に目覚め、これを求めていくように心を込めて教えてくださいました。また、生涯にわたり学び続けていけるよう、学問の方法、学問を愛する心、自らの考え、判断する力を養うための、様々な助力を与えてくださいました。」

最後に初代校長のマザー・エリザベス・ブリットの言葉です。

「あなた方は社会のどんな場所にあっても、その場に灯をかける女性になりなさい」

今、あなた方にトーチは手渡されました。聖心の歴史と伝統をさらに発展させる担い手になるべく、充実した大学生活を送られるよう祈っております。

最後に、神様の祝福がこの素晴らしい新入生の皆さんとご家族にありますように願いをこめまして私の祝辞とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございます。



新任教員紹介



金澤 洋子
英語英文学科教授

「ことばの学習と気づき」

初めまして。この4月1日より英語英文学科に赴任致しました。これまで三十数年、中・高等学校から大学・大学院まで、工学・医学薬学系の英語を含め様々な分野とレベルの英語教育に携わり、聖心女子大学は大学として4校目の専任職となります。専門は第二言語習得（英語教育）、語用論、L2 Writing など学習者と二言語使用に関わる分野を扱っております。聖心女子大学では英語科目とゼミの他、英語科教育法、特講（言語習得の講義）などを担当致します。

外国語の学習は、ことばに対する意識を高め、意味解釈の仕組みやルールについて改めて気づかせてくれるかもしれません。また外国語学習理論を学ぶことで、さらに英語と日本語の違いに敏感になり深い学びにつながるかもしれません。自らのことばを学ぶプロセスを分析しながら様々な理論を検討することは、言葉を学び、教える上で大いに役に立つでしょう。ことばの学習を通じて学生の皆さまがさらに自信を深め社会で活躍できる礎を築く一助になりましたら幸いです。



高木 秀明
人間関係学科教授

「学生の成長のために」

私は青年心理学を専門とし、青年のパーソナリティの発達を中心に研究してきました。本学では人間関係学科で人格心理学を担当します。

これまで横浜国立大学で35年間、教育研究に携わりました。その間、中学校や小学校のスクールカウンセラーも務め、学校現場の子供たちの様子やそれを取り巻く家庭環境や学校環境の様子を見てきました。そして、実際に子供たちの問題に関わる中で、家庭環境や学校環境の重要さに度々気づかされました。親が変わると子供も変わり、担任が変わると生徒もその影響を受けるという例に何度も遭遇しました。

聖心女子大学での1回目の授業を行ってみて、真面目な学生が多いと感じました。この学生たちに授業やその他の関わりを通して良好な環境を提供し、イエスの聖なる心のもとで、魂と知性と実行力を育て、自立してよりよい社会を築くことに貢献できる女性を育てるという、本学の目的に向かって微力を尽くしたいと思います。



益川 弘如
教育学科教授

「これまでの学びを見直し、これからの学びを創る」

学習科学、教育学という研究領域を専門としています。これら研究領域では、知識は社会的に構成されるものという考え方を基盤として、世の中の学びをよりよいものへと変容させることに研究の焦点を当てています。そのため、「人はいかに学ぶか」「人はどこまで賢くなれるのか」という問いに対して、研究者と現場教員、学習環境や教育情報メディアの専門家、教育行政や産業界の方々などと対話しつつ、新たな授業やカリキュラムを構築して実証していく取り組みを行っています。目指す授業と評価の姿は「知識創造型」です。そこでは授業を通して子どもたち自身からさらに知りたいことが生まれるよう学習環境や教材をデザインし、仲間との協調問題解決活動を通じた知識創造につなげていきます。子どもたちが持っている資質・能力を存分に発揮させるために ICT 機器も活用します。いわば社会に出た先の学びの姿を学校内で存分に、質高く経験させることが大事だと考えています。このような研究成果を常に自身の授業にフィードバックさせながら、みなさまと一緒に歩んでゆきたいです。



清水 由貴子
日本語日本文学科
専任講師

「身近な日本語の中にある素朴な疑問を大切に」

日本語日本文学科で現代日本語を担当します。普段何気なく使っている日本語の中の興味深い現象に、どのような規則があるのか、なぜそうなるのか、と様々な角度から観察して考えることが好きです。前職までは、留学生に対する日本語教育を主に行っておりました。日本語を外国語として学ぶ留学生に、母語である日本語の文法説明をすることは容易なことではありません。しかし、留学生たちから繰り出される「ネイティブなら考えたこともないような疑問」に日々立ち向かううちに、より深く日本語の語法や文法について研究したいと思うようになりました。

将来、ことばの専門家になりたい人にも、そうでない人にも、身近な日本語をもう一度見直し、今まで当たり前すぎて見落としていたことに気づくという新鮮な経験を、ぜひしてほしいと思います。素朴な疑問に悩み、思いがけない発見に喜ぶ、そんな学びの楽しさを皆さんと共有できたらと思います。



平成28年度卒業式 祝辞

ハンス ユーゲン・マルクス
学校法人南山学園理事長
(※平成29年3月11日時点)

只今、学位記を授与された皆さん、おめでとうございます。この日を待ち心から喜び申し上げます。また、本日は、伝統ある聖心女子大学の卒業式にお招きいただき、大変光栄に思っております。

いつも御校の卒業式は国際女性デーと前後して行われていることに深い感慨を覚えます。今週の水曜日、国連のグテレス事務総長は2017年の国際女性デーに際して、「女性の権利を揮い、彼女たちの可能性を最大限に発揮させる唯一の方法は、女性をエンパワー、「すなわち、女性に」力を与えることだ」と訴え、「時代錯誤の考えと凝り固まった男性優位主義によって、指導的地位はいまだに男性によって占められ、経済的なジェンダーギャップが広がっている」と指摘する原稿を、世界の主要メディアに寄せました。実際、その通りでしょう。例えば、各国の議会では女性議員が占める割合の上位5位まではルワンダ、ボリビアをはじめ発展途上国が占めていて、先進国のうちでは23位のドイツがトップ、日本に至っては163位です。

振り返ってみますと、皆さんが高校3年生で大学入試のために一生懸命勉強に励んでいた、その年の12月には、第二次安倍内閣が誕生し、アベノミクスと言われる三本の矢の改革を掲げました。それは、大胆な金融政策、機動的な財政出動、そして成長戦略のため安心につながる社会保障改革の三つで

した。最初の二本は直ちに放たれ、目に見える成果がありました。第三本の矢は放たれませんでした。まだまだ成果が見えませんが、本来的な構造改革なしにはあり得ないので、トップに立つ者は政治生命をかけて取り組むことになりました。私の母国の経験から言いますと、10数年前首相を務めていたゲルハルド・シュレーダーは自分の所属政党の強い抵抗を乗り越えて構造改革を敢行したおかげで、ドイツ統一の数年後から、「ヨーロッパの病人」と言われていたドイツ経済は元氣を取り戻しています。しかし、次の総選挙では所属政党の支持者が減り、シュレーダーは首相の座を現職のアングラ・メルケルに譲らなくてはならなかったのです。因みに、現在ドイツでは、5つの政党の党首のうち、なんと4名が女性です。これとの関連で安倍首相の改革について評価したいのが、2015年8月28日に成立した「女性活躍推進法」のために強いリーダーシップを発揮したことです。この法律は、女性活躍のための初めての取り組みではありません。30年前には「男女雇用機会均等法」が、その数年後には「育児介護休業法」等が採択されました。それでも変化が見えてこなかった最大の理由としては、社会に根付いている常識が挙げられます。

すなわち、「子どもが生まれても、男はやっばり仕事優先」、働くのであれば、それまで男性がやってきたような働き方をすることが求められ、「どうしても無理なら育児や時短勤務の制度を使ってもいいよ」、というのがこれまでの常識でした。これを乗り越えるために、安倍首相は「女性活躍推進法」に取り組んだのです。この法律には罰則は設けられていませんが、301人以上の労働者を雇用する企業には、女性管理職比率など、自社の女性活躍に関する状況を把握し、課題を分析して、解決のための数値目標と取り組みを盛り込んだ行動計画を作成して公表、届け出ることが義務付けられており、国や自治体にも様々な注文が出されています。恥の文化と言われる日本では、たとえ罰則がなくても、良くな

い部分が社会に公表されることを嫌う風土があるので、法律の効果は期待できるでしょう。ただ気になるのは、この常識改革を推進するために、政治家たちが、あまりにも女性の活躍推進、即ち労働力増加、という点を強調しすぎるのではないかと、ということ。確かに、日本では少子高齢化が進む中で働く人の数が減り、このままでは経済が衰退してしまうかもしれない。このように、主に労働力が男女平等の実現に向けての動機として挙げられるのは、従前の社会常識が根強く、経済的利点を挙げれば、雇い側が動いてくれるかもしれない、という判断があったのでしょう。しかし、女性の活躍推進への取り組みは、労働力を補ってやることに尽きるはずありません。なぜなら、自らが希望するとおりに活躍できる権利は、本来なら、一人の人間としては、それぞれに備わっているものだからです。現在42か国で170の「聖心女子学院」で行われている教育は、「一人一人の人間がかけがえない存在である」というキリスト教価値観に基づいています。その価値観の要の一つは、人間が神の似姿としてこの世に生まれてくると、という考えです。この考えは、天地万物の創造を物語る聖書の最初の頁にさかのぼります。そこでは、光の創造、大地、植物、動物の創造は、「神は言われた、云々があれ、...そのようになつた」というふうに変更された後に、このワン・パターンを改められて人間の創造についての話はこう始まりま

す。「我々にかたどり、我々に似せて、人を創ろう」(創世記1章26節)。すなわち神は、語りかけに応えることができる相手を探して、人間の創造を決意した、という次第です。続いて創造の行為はこう述べられています。「神はご自分にかたどって人を創造された。神にかたどって創造された。男と女に創造された」(27節)。

今引用した文書の中で、「神に似せて」「神にかたどって」という表現の繰り返しが目立ちます。明らかに、男性のみならず女性も神の似姿として、侵すべからざる尊厳をもつ、と強調されています。これが2500年も前の

中近東で書かれたことを考えると、男性中心の父権社会に対する批判が伺われます。イエスはその批判的な精神を受け継いで、弟子は男性だけ、という当時の社会常識に逆らって、女性をも弟子団に迎えました。そして、一番古い福音伝承から分るように、イエスが逮捕されるや、男性の弟子が直ちに故郷ガリラヤに逃げ帰ったのは対照的に、女性の弟子は十字架刑の最後まで近くにいきました。それまでイエスが説いた福音の要は、人は皆、神の子らなので、やがて「神の国」が出来上がるときには、自ら他者を差別しない限り、誰もが歓迎される、ということでした。これは、特に差別されていた人々にとって前代未聞の福音、すなわち良い知らせでした。しかし権力者には、従来の体制を危うくしかねない脅威と映ったため、その実質的な無力を見せしめるため、イエスは十字架刑に処せられました。そして、このイエスが死者の中から復活した、とキリスト教では信じられています。その意味は、神が、いと惨めに亡くなったイエスをわが子として迎え、その下にすべてを一つに集めることを望まれる、ということ。その信仰を広めたパウロは、ガラテヤの信徒に送った手紙で、「もはやユダヤ人もギリシヤ人もなく、奴隷も自由な身分の者もなく、男も女もありません。あなた方は皆、キリスト・イエスにおいて一つだからです」(3章28節)、と訴えています。



平成28年度卒業式 謝辞

第67回卒業生代表

押見 まり



寒さも次第にゆるみ、花の便りが聞こえる頃となりました。本日は学長様をはじめ、多くの皆様のご臨席を賜り、豊かな祝福のもと、この日を迎えられましたことを感謝いたします。

光陰矢の如しと申しますが、四年という月日は本当に短く、どの場面も昨日のこのように思い出されま

す。四年前の春、私達はここマリアンホールで、学長様より「大学生活をデザインする」というお話をいただきました。そのお言葉を胸に、一年次では皆それぞれ幅広い学びをデザインし、専門的な学問のみならず、社会で生きる基礎となる教養を身に付けることができました。一年次での学びは、大学での学びの最初の一步であったと同時に、自分自身と対話し、道を見定める羅針盤になったと思います。

そのようにして選んだ道に従い、二年次からはそれぞれの専攻へと進みました。そこで一つの学問を深め

つつ、広く他の領域においても、本格的な学びに励みました。先生方のご講義だけでなく、発表やディスカッションを通して、自ら考え、伝えるという主体的な学びの姿勢を養うことができました。仲間たちと切磋琢磨し、学びを己の血肉としていく日々は、大変充実したものでございました。

そして四年次では、それまでの学びの集大成として、卒業論文に取り組みました。自ら問題を提起し、考え、研究を重ね、さらにその成果を学術論文として綴ることはとても難しく、時には行き詰まることもありました。しかし、先生方はいつも温かく私達の背中を押してくださいました。卒業生全員が大学での学びを論文として完成させ、今日こうしてそれぞれの道へと旅立っていきけるのは、先生方の、時に厳しく、熱いご指導あつてのことと存じます。改めてお礼申し上げます。私自身は、「人それぞれの心を大事にする生き方をしたい」という想いを持ち、哲学専

攻で学びを深めてまいりました。「知を愛すること」であり、時に真善美聖という根元的な概念を扱う哲学を通して、物事を真摯に見つめ、根本から考える力を養うことができたと思っております。そして、哲学科での自由な学びは、自分の問いに正面から挑む勇氣となりました。卒業研究におきましては、「他者との関わり」をテーマに据え、他者との暴力なき関係の構築を探求いたしました。そのなかで、古今東西の様々な思想や考えもなかった問いに触れ、自身の浅学を痛感し、もっと学びを深めたいと思うようになりました。こうして「自己」を見つめたうえで、大学院進学という道を選ぶことができましたのも、聖心ならではの、幅広い学びを得られたからこそと存じます。

また、学業だけでなく、様々な課外活動を通じ、多くの経験を得ることができました。特に、MSSSと、四年次に友人とともに立ち上げたSHOC Projectでのボランティア活動には、大きな学びがありました。MSSSでは障碍のある方々、SHOC Projectでは福島県いわき市の方々と関わるなかで、単なる慈善や自己犠牲ではなく、小さくとも自分ができることを、知と心の両方を使って行う大切さ、難しさを学びました。この「知と心を使う」ことこそ、知識と実践が結びついた女性を目指す、聖心の教えに他ならないと感じました。

さらに、四年間の学寮生活も忘れることはできません。学年や学科、時には国籍を超えた仲間と、一つ屋根の下で、涙も笑顔も分かち合い、助け合ったことは、聖心の温かさの象徴のように感じます。学寮での共

同生活を通して、このような温かく強い絆を得られたことは、私たちの大きな支えとなることでしよう。こうして大学生活を振り返ってみますと、温かな聖心の学風のもと、知と心を養った四年間でございました。卒業生一人一人が思い思いにデザインした大学生活は、どれも美しい一点ものになったことと思えます。この想い出を糧とし、今日からそれぞれの道へと踏み出してまいります。

奇しくも六年前の今日、日本はかつてない悲しみに見舞われました。六年という歳月を経て、物の復興は進んでいます。被災された方々の心はまだ悲しみの中にあります。そのうえ、この六年で社会情勢も大きく変わり、世界は分断の危機に直面しています。しかし、このような社会の中でこそ、聖心が培った力が助けとなるでしょう。それぞれの行く先で、聖心という一つの大きな家族の一員として、小さくとも温かな愛の火を灯してまいりたいと思えます。

最後になりましたが、聖心生のありべき姿をいつもご教示くださった学長様、いつも優しく私達のことをお祈りくださったシスター方、学問の面白さを教えてくださった、温かくご指導くださった先生方、学生生活を整え、支えてくださった職員の皆様、そして、いつも私達を想い、側にいてくれた家族に、心より感謝申し上げます。

これからも多くの学生が幸多き大学生活を送られますよう、聖心女子大学のますますのご発展と、大学に関わるすべての皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げます、感謝の言葉とさせていただきます。

平成28年度 修士学位記授与式 謝辞



修了生代表 浅野 菜緒子



草木が芽吹き、風の中に春の訪れが感じられる頃となりました。本日はお忙しい中、学長様をはじめシスター方、先生方、並びにご来賓の皆様のご臨席を賜り、学位記授与式を挙げていただきましたことを、修了生を代表して心より御礼申し上げます。今日のこの日を迎えられることは、博士後期課程修了者二名、修士および博士前期課程修了者十四名にとりまして、大きな喜びでございます。

大学院に進学し、各々が専攻する分野は違えども、私たちは皆日々勉学に勤しみ、研究を進めてまいりました。修士、博士課程において求められる姿勢は、自発性です。受け身で学ぶのではなく、当たり前とされることに疑問を持ち、課題を見出し、目標を設定することで、一人ひとりが専門性を身に着ける努力を重ねてまいりました。自分自身の発見や考察を論文にまとめ、読み手に訴えかけることは、決して容易ではございませんでした。大学院学生として地道な研究を続けることに、不安や迷

いを感じることもございました。しかし、この研究に価値はあるのか、誰かの役に立つのか、と思いつつ悩むたびに、指導教授をはじめ、分野を越えて多くの先生方から、ご指導と励ましを賜り、今日まで歩み続けることができました。

私事となりますが、博士後期課程に進学して三年間、十九世紀英国の画家ミレイによる、シエクスピア作品の表象を研究してまいりました。本来舞台上で上演されるために生み出された戯曲を、数世紀を経て野心あふれる若き芸術家が絵画作品として再創造し、その作品が現代の鑑賞者をも魅了し、靈感を与え続けている。その不思議な魅力を探ることは、誠に喜びであり、何物にも代えがたい経験となりました。同時に、歴史や文化の一部分に光を当てることは、大きな責任が伴い、常に謙虚さが求められると学びました。今後ともそうした意識を常にもち、研究と仕事に取り組んでいく所存です。

卒業式は時として英語で、graduationではなく commencement と表されることがあります。今この瞬間は、決して「終わり」ではなく「始まり」であり、この学び舎で得た知見を活かし社会に貢献するべく、新たな人生へと漕ぎ出していくことが、私たちの使命であると感じております。知識は力です。「ポスト真実」という言葉が台頭し、事実が公然と否定され、異なる価値観や文化を拒む不寛容さが蔓延しつつある今日、私たちは違いを恐れるのではなく、尊ぶ大切さを訴えていくことを、ここにお約束いたします。最後にになりましたが、日々研究に勤しみ、学位取得に至るまでに、多くの方々を支えていただいたことに、



今一度思いを馳せたいと思います。学長様をはじめ、惜しみなくご指導、ご鞭撻くださいましたシスター方・先生方、勉学と研究に没頭できる環境を整えてくださった大学職員の皆様、厚く御礼申し上げます。時に迷いを抱きつつ研究する私たちを、優しく導いてくださった先輩方、共に励まし合った仲間や後輩たち、友人たちの支え無くしては、これまで経験した多くのことをなし得ることができませんでした。研究生生活を送るうえで、お力添えくださった全ての方々、そしていかなる時も心の支えとなり、励ましてくれた家族に深く感謝いたします。結びにあたり、聖心女子大学大学院のさらなるご発展と、本日までご健勝とご多幸をお祈り申し上げます、感謝の言葉とさせていただきます。

第12回博士学位記授与式
第64回修士学位記授与式
第67回学士学位記授与式
(卒業式)

3月11日(土)午前10時30分から、第12回博士学位記授与式及び第64回修士学位記授与式が宮代ホールで行われ、続いて午後1時から、第67回学士学位記授与式(卒業式)がマリアンホールで行われた。平成28年度学位記授与者の状況は次のとおり。

大学院博士後期課程

人文学専攻 1名

人間科学専攻(心理学分野) 1名

大学院修士及び博士前期課程

英語英文学専攻 2名

史学専攻 2名

社会文化学専攻 2名

哲学専攻 2名

人間科学専攻(教育学分野) 2名

人間科学専攻(心理学分野) 4名

学部

英語英文学科 90名

日本語日本文学科 55名

歴史社会学科 63名

〈史学専攻〉 69名

〈人間関係専攻〉 69名

〈国際交流専攻〉 69名

哲学科 43名

教育学科 38名

〈教育学専攻〉 24名

〈初等教育学専攻〉 24名

〈心理学専攻〉 73名

聖心女子大学 マグダレナ・ソフィア・バラ 記念学長賞

建学の精神は、一人ひとりの学生の生活の中に生きられてこそ、目的を達成するものです。

聖心女子大学マグダレナ・ソフィア・バラ記念学長賞は、建学の精神をよく体現し、模範となる学生生活を送ったと認められる学生に、学長より送られる賞であり、平成28年度卒業式において学長より賞状および副賞が授与されました。



平成28年度受賞者



英語英文学科

出射 靖子
さん

この度は、マグダレナ・ソフィア・バラ記念学長賞を拝受しまして、大変光栄に存じます。聖心女子大学で過ごした4年間、多くの皆様に温かく支えていただいたことを改めて実感しております。

このようなお恵みを頂戴しましたことを感謝申し上げます。

岡崎学長やシスターの皆様から、創立から現在に至るまでに命を懸けて聖心会を築いてくださったシスターのお話を伺いました。聖マグダレナ・ソフィア・バラの心の中で燃えていた愛の灯火を、これからは私たちも道の辺に灯す存在でありたいと思います。最後に、大学生活をお導きくださった、岡崎学長、シスターの皆様、林龍次郎先生をはじめ教職員の皆様、共に励まし合い学んだ仲間、全ての皆様に深く感謝申し上げます。そして、聖心女子大学への道を歩ませてくれた家族に心からありがとうを送ります。



英語英文学科

小寺 本恵
さん

このような賞をいただきましたこと、大変光栄であり、これまでお世話になったすべての方々に感謝申し上げます。

この4年間、学生会役員会やゼミでの学びなど自身の視野、知見を広げる機会を多くいただきました。学生会役員会では、様々な方とのコミュニケーションを通し、大学行事の運営などに携わりました。所属した翻訳ゼミでは、言葉の持つ意味、ニュアンスを感じ取りながら、読み手に分かりやすい訳とはいかなるものか試行錯誤をしました。同じ目標やゴールに向かい、時間を忘れて仲間と議論した経験は深く印象に残っています。そして、各活動においていつも私の背中を押してくれたのは、聖心で教わり自身の軸としてきた「ござだそう、高きをめざして」の精神です。

今後も常に自分自身を高める努力を忘れず、現代社会に求められる女性に少しでも近づくよう日々精進してまいりたいと思います。



哲学科

羽渕 信子
さん

この度、創立者のお名前を冠した賞を賜り、身の引き締まる思いです。

聖心での日々を振り返りますと、多くの出会いとかかわりの中で勉学も課外活動も充実した時を過ごすことができたと感じます。哲学科では敬愛する先生方のもと、学ぶことの喜びを知ることができました。リタジーサークルでは、小さな団体ながらも多くの方の支えを得て、カトリックハンドブック作りをはじめ学内の様々な行事・企画に携わりました。これらの経験が私を引き上げてくれたと感じています。改めて、お世話になった全ての方々に心から感謝申し上げます。

華々しい活躍をしたわけではない私がこの賞をいただけたことが、今後どなたかの励みになりましたら幸いです。

今後も、置かれた場所で努力を怠らず、誠実に歩んでまいりたいと思います。いつの日か直接的な形でなくても、いただいた恵みをお返しできましたら嬉しいです。

キャリアセンターより 平成28年度卒業生の進路状況及び 平成29年度卒業（修了）予定学生の 就職活動について



平成28年度卒業生の進路状況 (平成29年5月1日現在)

◆就職

就職決定率 98.6%

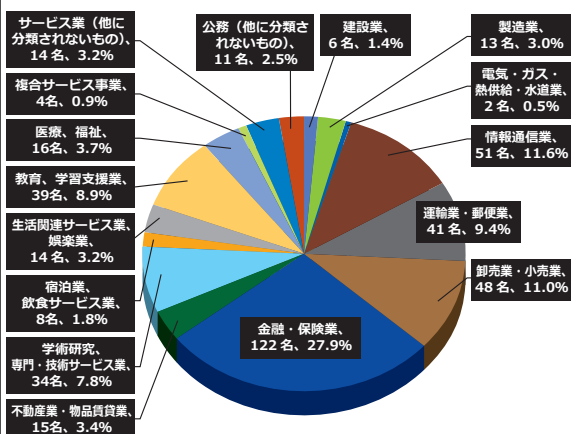
就職決定者数 436名

◆進学

進学決定者数 36名

(うち、大学院進学者数 31名)

◆産業別就職状況



文部科学省および厚生労働省の合同調査（3月17日発表・2月1日現在）によると平成29年3月卒業の大学（学部）の就職内定率は90・6%（私立大学女子93・6%）となっている。昨年同期比2・8ポイントの増加で、6年連続の増加基調となった。一方、本学の就職内定率は98・6%（3月31日現在）と高水準を維持しており、また、決定した進路への学生満足度（卒業時アンケート）も93・8%と概ね良好な数値を示している。「しなやかさ」「実行力」「粘り強さ」「礼儀正しさ」という聖心生の特性が企業等から評価されているもので、これまでの卒業生が実力を発揮し築き上げてきた社会からの信頼の上に、その伝統を引き継ぎ発展させている現役生の努力が結果につながっている。

来年度の春卒業（修了）予定の4年次生については、昨年度と同様、現在、就職活動のピークを迎えている。筆記試験や面接での感触に一喜一憂し不安を感じる時期でもあるが、いつでもキャリアセンターに立ち寄ってほしい。本学キャリアセンターに立地しているの、キャリアセンターで態勢を整え落ち着いてから会社訪問、採用選考に臨むことができる。企業等により早々に内々定を出しているところもあるが、内定時期によらず夫々に相応しい進路に決まってくるので、決して焦る必要はない。

また、3年次生も就職活動を意識し始め、漠然とした不安を感じているかもしれない。しかし、キャリアセンターでは、学年に応じたガイダンスやセミナー等を準備しており、個別の相談、問い合わせにも常時対応している。キャリア支援行事は、キャリアセンター「進路・就職支援TOPICS」、キャリアセンター Twitter で案内している。この機会にチェックし、積極的に参加いただきたい。

平成28年度第2回 聖心女子大学協力会役員会開催

平成29年3月23日午後3時から本学ブルーパーラーで平成28年度第2回聖心女子大学協力会役員会が開催された。

濱口会長の進行のもと、議題1「平成28年度事業報告及び決算見込について」及び議題2「平成29年度事業計画及び予算案について」、配付資料をもとに年真経理部長から説明があり、それぞれの議案が承認された。議題3「平成29年度役員候補者について」は、名誉会長である岡崎学長に人選を一任することが承認され、議題4「平成29年度監事候補者について」は、現任の宇野節生氏、羽瀨信宏氏を監事候補者として総会に推薦することが承認された。引き続き、報告事項として北村評価・大学院担当副学長、川津学生担当副学長及び西村事務局長から大学の近況が報告された後、質疑応答があり、午後4時に閉会した。

(総務課)

NEWS

4号館聖心グローバルプラザ3階のホールの名称が、初代学長マザー・ブリットの名前を冠して、「ブリット記念ホール」に決まりました。

公益財団法人大学基準協会による「大学評価（認証評価）結果」報告

聖心女子大学はこのたび、認証評価機関である公益財団法人大学基準協会から、大学基準に適合しているとの認定を2017年（平成29）年3月13日付で受けました。全ての大学は7年以内の周期で、認証評価機関による大学評価を受け、適合の認定を得ることが法令により義務づけられており、今回の認定は、前回（2010年3月）に次ぐものです。また認定の期間は2017（平成29）年4月1日より2024（平成36）年3月31日までとされています。

今回の評価結果のうち、大学に対する「提言」のなかで「長所として特記すべき事項」として特に高い評価をいただいた項目として、(1) 基準6「学生支援」については、学科にまだ所属しない1年次生に対して1年次センターが中心となり特に手厚い支援体制を整えていること、2年次以降の学生についてもきめ細かい学生支援を行っていること、(2) 基準8「社会連携・社会貢献」については、カトリック精神に基づく奉仕活動・ボランティア活動に積極的かつ組織的に取り組んでいること、また様々な交流・支援活動などの課外体験と大学での知的学びとを結びつける工夫をしていること、などがあげられました。一方、シラバス記載内容の改善など改善が望まれる「努力課題」としてあげられた項目については、大学をあげて真摯に取り組み、一日も早く「改善報告書」に取りまとめる所存です。

本学は、今後とも全学的な内部質保証体制のもとに自己点検・評価活動を継続し、これを通して「一人一人の人間をかけがえのない存在として愛するキリストの聖心（みこころ）に学び、自ら求めた学業を修め、その成果をもって社会との関わりを深める」という本学の教育理念に基づき、教育研究の質の維持・向上のための取り組みを続けてまいります。

平成29年3月31日
聖心女子大学学長 岡崎淑子



学生座談会

—新2年次生に聞く、初年次での学び—

大学生になって、まず最初に考えることはどんなことでしょうか。友人のこと、履修のこと、課外活動のことなど、様々な希望や不安を胸に大学生活をスタートさせていることと思います。先輩たちは、どのように不安を克服し、学んできたのでしょうか。新2年生となった学生に、これまでの1年間を振り返ってもらいました。



対談者

日本語日本文学科2年次生 梅田 紗芳さん
日本語日本文学科2年次生 佐藤 なつほさん
人間関係学科2年次生 白石 楓さん

1年次センター長 杉原 真晃 先生
学生生活課 土肥 久美子課長

学科決定について

杉原 新しい年度になりました。みなさん各学科に進んでいかがですか？
白石 希望通りの学科に進めたので、とても楽しいです。
杉原 みなさんが今の学科に進んだきっかけは何ですか？
白石 授業やパンフレットを見て社会心理学に興味を持ったので、人間関係学科に進みました。でも、心理学と国際交流学科にも興味があり、1年次でいろいろな学科の授業を受けてみて、本当に行きたい学科はどこなのか、時間をかけて考えました。
梅田 私は、もともと近代文学が好きでしたし、日本語について、より知りたいと思ったことが理由です。ただ、人間関係学科と日本語日本文学科とで悩みました。最終的には、教職を国語科で取りたくて、それが決め手になりました。
杉原 日本語に関心をもたれたきっかけは何がありますか？
梅田 「言葉の世界」という日本語日本文学科の山田(進)先生(H29・3月退職)の授業が面白くて、興味を持ったんです。
佐藤 私は、中学生の頃から古典文学に興味があって、古典を専門的に学びたいと思って、迷うことなく日本語日本文学科を選びました。

基礎課程で学んだこと

杉原 1年次の基礎課程でいろいろな領域を学んでよかった点はどこですか？
梅田 基礎課程演習は、「数学再入門」(国際交流学科 三田先生(H29・3月退職)担当)を履修しました。高校一年生ぶりの数学だったので心配でしたが、高校当時理解できなかったことも今はわかることがあって発見でした。
佐藤 私は、日本語日本文学科の川津先生の演習を履修しました。勉強してみると、文学は歴史と深い関係があることを発見して、これまで苦手だった日本史が面白くなりました。
梅田 自分とは違う分野を学んでいる友人に、私が古典文学に関してこういうことを考えているという話をすると、友人が、いま自分が学んでいることに似ていると言ってくれるこ



宮代会だより

4月3日、桜の花はまだ咲き始めてはありましたが良いお天気に恵まれ、無事入学式を迎えられた新入生の皆さま、聖心女子大学同窓会、宮代会から心よりお祝い申し上げます。

南門を上がった左手にある宮代会館は同窓会活動の拠点であり、ボランティア活動を始め、お稽古、会合等で多くの会員にご利用いただいております。

お稽古は華道、茶道、書道、日本画、テールセッティングなど在校生も参加できますのでどうぞ宮代会館にお問い合わせ下さいませ。



【お稽古お問合せ】
月～金10時～16時の館内利用時間内。
電話 03-3407-1971



【宮代ショップ営業時間】
月～金10時～16時20分。
13時30分～14時30分はお昼休憩、
但しご連絡いただければ対応可能。

とがありました。別の視点を教えられてハッとすることがあります。

杉原 違う角度から繋がりを感じたのですね。

佐藤 些細なことですけれど。

杉原 基礎課程演習で学んだことで、いま役に立っていることを教えてください。

白石 基本的なことですが、レジメの準備の仕方や、パワーポイントを使った発表の練習など、小人数のグループワークの中で皆が経験できたので、今後の学習に役立ちそうです。

また、基礎課程演習で人間関係学科の大先生の「働くこと」を履修しましたが、先生の「ピヨピヨしない」との言葉が印象的でした。杉原、ピヨピヨしない？

白石 小鳥が親鳥から餌をもらうときに、ピヨピヨ言いますよね。そういう受け身の姿勢ではなく、わからないことは自分から聞きに行く、行動しなさい、という意味だと思います。

佐藤 私は、文学について論じる場合、作者の生い立ちなどが作品にどう影響しているのか、作品の背景を調べることの大切さを学びました。

杉原 それは人間理解にとっても、とても大切なことだと思いますね。子供がいわゆる問題行動を起こしたときも、それまでどういう生き方をして、どういう環境で育ってきたのか、そういう背景を知ることがとても大切なんです。

梅田 三田先生は、「間違えてもいいから、まづやってみなさい」ということを、おっしゃいました。数学なので、間違えてはいけません。引っこみ思案なので、その言葉が響きました。それから、授業での発表の際、前半の発表者に対しては、ちゃんとしていた拍手も、後半になるとだんだんまばらになってしまふ。それに対して先生が、最後の発表者まで、ちゃんと感謝と敬意を伝えるのがルールじゃないか、とおっしゃったことが印象に残っています。

白石 大槻先生の授業で、社会人インタビューの課題がありました。インタビューのための連絡をとることから始めて、一対一でお話を伺ったことが、キャリアを考えるきっかけになりました。1年次生からそういう機会を与えてもらったことに感謝しています。

ジェネラルレクチャーについて

杉原 ジェネラルレクチャーは、多彩な分野の方から、未知の世界や、興味のなかったこと

を伺えるいい機会だったと思います。いかがでしたか。

梅田 津軽三味線の演奏家の方のお話と演奏が一番印象深かったです。中学生のときに吹奏楽をしていたので、もともと音楽は好きですが、津軽三味線は初めて聞きました。三味線の曲以外に、皆が良く知るゲームの曲も弾いてくださって、こんなこともできるのか、とすごくワクワクしました。

佐藤 プラネタリウム解説員の方のお話を伺って、星座の元になっているギリシャ神話が、古事記や日本神話と似通ったところがあることに気がきました。それ以降、世界史にも目を向けるようになったので、私のなかでは、あのお話が一番心に残りました。

1年次センターについて

杉原 一年間、大学での生活を通して、1年次センターをどのように活用しましたか？

白石 入学直後、お昼休みのレクリエーションルームや学生食堂は先輩方がたくさんいて、席がなかなか取れませんでした。でも1年次センターは1年次生だけでした。交流も広がりました。スタッフの方には、わからないことはなんでも伺いましたが、とても丁寧に教えて下さいました。

梅田 私もここで友人の輪が広がりました。別のテーブルにいる人たちとも話せる雰囲気があるので、交流が広がるのだと思います。また、大学周辺のお店もまったく知らなかったのですが、(センター内掲示板の)広尾商店街MAPが役に立ちました。

佐藤 私も同じです。入学当初は、顔見知りの友人数人と小さくまとまって1年次センターでお昼を食べていたんですが、一人で利用していた子に声をかけて、一緒に食べたりしたこともありました。

杉原 1年次センターにリクエストはありますか？

白石 とくに昼休みは、満席の時があるので、テーブルと椅子が増えると嬉しいですね。

梅田 コンセントを使える席が(壁際に)限られているので、延長コードの貸し出しをしていただけると嬉しいですね。

新入生へのメッセージ

杉原 何か新入生へメッセージがありますか？

白石 入学直後は、友達ができるかどうかがとても心配でした。特に姉妹校から上がってきた学生は、すでに顔見知り同士でその輪には入れないと勝手に思っていました。全くそんなことはないと思いたいです。ですので、心配しないで、と言いたいです。

梅田 三田先生から教わった、「間違えてもいいから、やってみる」ということです。いま思えば、1年次生のうちに、資格をとるなど、やっておけばよかったと思うことが多くあります。やろうと思えば時間は作れるんだよ、ということも伝えたいです。

佐藤 興味から離れたことでも、学んでみたら思いがけない繋がりが見つかることがあります。チャンスですから、いろいろな領域の授業を受けてもらいたいと思います。必ず自分の世界が広がると思います。

土肥 みなさんがこの一年で吸収したことは、自分から「学ぼう」とする姿勢がなければ身につかないことだと思います。これから新入生が基礎課程で学ぶにあたって、気を付けてほしいということがあれば教えてください。

白石 一見興味があかない授業でも、一度フラットな気持ちで見直し、少しでも気になるのであれば、積極的に受けたいです。

梅田 自分の興味とは離れていても、教養を身につけることは人と繋がる大切なツールでもあると思います。さきほどお話しした津軽三味線のことですが、アルバイト先で、津軽三味線をやっておられるご年配の女性の方に、大学での経験をお話したらとても喜んでくださって会話が弾みました。そういう何気ないところにもつながっていると思うので、とにかく聞いてほしいと思います。

佐藤 大槻先生の言葉をお借りすれば「ピヨピヨしない」ことです。受動的ではなく能動的に動かないと自分の力にならないということ、を言いたいです。ひとつの本を読むにしても、理解を深めるためには、自分で気になる点を見つけて、さまざまな角度から調べるのが大切だと思います。

杉原 本日は、貴重なお話を聞くことができ、



大変有意義でした。今後、困っている1年次生を見かけたら、声を掛けてあげてほしいです。長時間にわたり、ありがとうございました。

1年次センターよりメッセージ

1年次生の皆さんの心境は様々なことと思います。皆さんの喜び、希望、悲しみ、不安…に私たちがどれだけ対応できるかはわかりませんが、全身全霊を込めて、寄り添い、支援していきたいと思っております。

聖心女子大学には、海外留学やボランティア活動等に積極的にかかわる学生がたくさんいます。「大学生ならではの」自由で躍動感あふれた活動を展開していかれることを願っております。一方で、本学には、一人でしっかりと読書にふける学生もいます。教職免許や各種資格を獲得すべく一所懸命に学習する学生もいます。大学生活が思うように進まずに悩んでいる学生もいます。そのような様々なバックグラウンドや状況を抱えた方々を、都会の中であってその喧騒から離れた静かなキャンパス全体をもって、私たちは包み、支えたいと思っております。そして、皆さんそれぞれがそのままの自分でいられることを願っております。

1年次センター長 杉原 真晃 (教育学科)
1年次センター長補佐 杉本 淳子 (英語英文学科)

聖心女子大学の 初年次教育

WELCOME

1年次センターは
1年次生のための学生研究室です。
1年次生の居場所として、
また1年次生の皆さんの
コンシェルジュ的な相談窓口
としてご利用ください。



1. 基礎課程の特徴

聖心女子大学のカリキュラムの特徴は、入学してからの1年間は、全員が「基礎課程」に所属し、2年次進級時に学科を決めることです。「基礎課程」では、様々な学問領域の入門科目や、各学科が1年次生に開放している専門科目を幅広く学びます。

2. 大学での学びの基礎をつくる

①1年次生のための基礎課程演習(ゼミ)
大学での新しい学びを円滑に進めるため、「文章等による表現力」「発表の力」「調査や情報収集の力」の強化のための基礎課程演習が設けられています。授業は学生の主体的な研究発表と意見交換を中心に進められ、大学での学習・研究活動に必要な基礎能力や積極的な姿勢を身につけます。

②ジェネラルレクチャー

理事長による教育理念の話のほか、学長をはじめ、各界で活躍するゲストや教員が様々なテーマで講演します。大学創立当初から現在まで受け継がれてきた伝統的なもので、学生が大学での学びについて考え、広い視野と教養を培い、自らの学問を修め、その成果をもって社会との関わりを深める「聖心スピリット」を育む特別な機会として位置づけられています。

3. 専門をじっくり選ぶための学び

1年次生に適した入門科目を多く揃えると同時に、通常は2年次以降に履修する専門性の高い専攻課程科目も、1年次生に開放しています。ハイレベルな勉強に挑戦したい1年次生への意欲に応えます。

4. 充実したサポート体制

基礎課程での1年間、基礎課程演習の専任教員がアカデミック・アドバイザーとして、1年次生の学びをサポートします。授業のこと、将来の進路と学びの関係、学科決定への相談と助言など、種々のアドバイスを受けることができます。

1年次センター

本学に早くなじむためのサポート

大学では、授業や履修のスタイルなどの学習環境がこれまでと大きく異なります。最初に戸惑うのは時間割を自分で組んでいくことだと思います。1年次センターでは、教務課と連携して履修相談会などを企画し、皆さんの疑問や不安に答えます。その他、どこに聞きに行けばいいのかわからない、という時も気軽に1年次センターにお問い合わせください。2年次以降の所属学科を決定する際のサポートとして、ランチをしながら気軽に上級生や教員に相談できる学科説明会も実施します。



「時間割を作ろう」イベント



履修相談会

交流の場



1年次センターには1年次生しかいません。1人で過ごしていても、声をかけられたり声をかけたり。アツという間に友人の輪が広がっていきます。雑誌などもあり、休憩や飲食スペースとしてホッと一息ついてください。

ジェネラルレクチャーの実施と運営

1年次センターは、ジェネラルレクチャーの実施と運営を行っています。講師の方々への質問と講師の方からの回答などをコミュニケーション・ボードに掲示しています。ぜひ読んでください。



Illustration by n.fukuda

ご寄付・ご支援のお願い【グローバル教育環境整備募金】

本学は、「世界の一員としての連帯感と使命感をもって、より良い社会を築くことに貢献する賢明な女性の育成」を使命に掲げてまいりました。

より一層使命の達成に邁進するため、大規模なキャンパス環境の整備を行い、全学的なグローバル教育の推進を計画しております。つきましてはこの計画を実現するために、皆様からのご支援を厚く広く賜りたくお願い申し上げます。

●寄付金ホームページ URL :

<https://www.u-sacred-heart.ac.jp/about/contribution.html>

【募金に関するお問い合わせ先】

聖心女子大学 経理部
〒150-8938 東京都渋谷区広尾4-3-1
TEL 03-3407-5811 (代)
FAX 03-3407-5856
E-mail: keiribu@u-sacred-heart.ac.jp